北海道釧路湖陵高等学校

SSH newsletter

発行日：2018.10.22
発行者：SSH 推進部
No. 8

□□ SSH特別講演会 □□

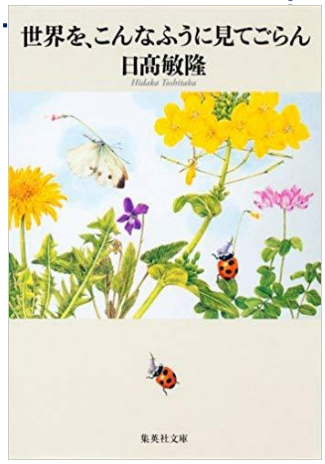
平成３０年１０月２３日（火）　１３時１０分～１５時１０分（第１体育館）
対象生徒　1,2年生全員（普通科・理数科）

「ひふみんアイのすゝめ ～多角的で豊かな探求のために」

講師：帝京科学大学　准教授　篠原　正典　氏

「動物、環境、そのかかわりを、自分の眼で観る」

ヒトや野生動物の行動・生態は、彼らが暮らす環境と密接な「かかわり」にあります。身近な動物や大好きな動物(私はイルカ・クジラが大好きです)をじっくり自分の眼で観察することで、与えられた知識としてではなく、自分自身の発見・経験として、その「かかわり」を学んでいく。動物行動学をベースに、このような研究と教育を進めていきます。（帝京科学大学HPより）



□探究活動スタート（普通科「総合的な学習の時間」）

今年度も、普通科で探究活動がスタートします。これから探究に取り組む皆さんに、「世界を、こんなふうに見てごらん」、身の回りの「なぜ？」を見つめる日高イズムを継承する、帝京科学大学の篠原先生（日高教授が指導した最後の大学院生）に「探究とは何か？」をテーマにご講演いただきます。

□1 冊の文庫本　日高敏隆　著　「世界を、こんなふうに見てごらん」（集英社文庫）

札幌出張に持って行く本を探す。（自宅の本棚）
買った覚えのない本だけど、まぁ、いいか。
この本が、素晴らしかった！
そうだ、探究活動をはじめる前に、この本を書いた
日高先生に、湖陵で講演をしてもうらおう！

□1 本の電話

（８月下旬の職員室）
渡邊：集英社に電話しようと思うんだけど。
佐藤さん：集英社の編集者なら、この前学校に来てたよ。教頭先生が、連絡先をご存じですよ。
渡邊：教頭先生、先日いらっしゃった集英社の編集者の方の電話番号を教えて下さい。
（１本の電話：集英社へ）
渡邊：「世界を、こんなふうに見てごらん」を読んでお電話しました。
著者の日高先生にご講演をお願いしようと思いまして。
編集者：日高先生は、お亡くなりになられています。
渡邊：「・・・・。」
編集者：「世界を、こんなふうに見てごらん」は、実は私が編集を担当した本です。
日高先生のご関係の先生をご紹介しましょうか？
渡邊：お願いします。あとがきを書かれた今福教授はいかがですか？（今福先生は京都大学の名誉教授）
編集者：今福先生もご高齢ですが・・・。でも、まずは今福先生にご連絡差し上げましょう。
（翌日）
編集者（メール）：今福先生が、京都大学、日高研ご出身の篠原先生を推薦して下さいました。
現在は、帝京科学大学の准教授でイルカの研究者です。連絡を取ってみて下さい。
渡邊：「ありがとうございました！！」

・６月の講演会を担当した集英社の方が、偶然、この本の編集を担当した方だった。
・日高先生と直接お仕事をされた編集者の方だったので、京都大学の名誉教授、今福先生にすぐに連絡していただくことができた。
・日高先生の一番弟子の今福先生が、篠原先生を推薦して下さった。
一冊の本、一本の電話からつながったのが今回のご縁です。「編集の仕事」にも感動しました。

【日高敏隆（京都大学・日高研）について】
日本で「動物行動学」という学問分野を開き、体系化した人物。ローレンツの「ソロモンの指輪」、ドーキンスの「利己的な遺伝子」などを翻訳しているだけではなく、『チョウはなぜ飛ぶか』 岩波書店<岩波科学の本>、『春の数えかた』 新潮社、など、自身も多数の著書を執筆した。
『世界を、こんなふうに見てごらん』は、日高敏隆の遺作。**（図書室に日高敏隆コーナー設置予定）**